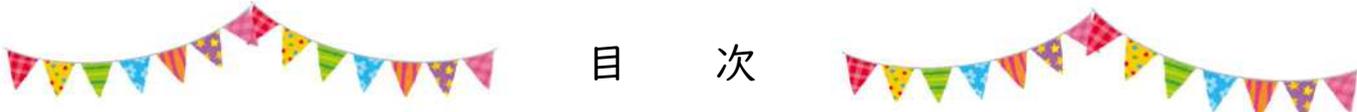


令和7年度

多文化の環境で育ち合う幼児教育の在り方  
～受け止め合う心を育むための関わりを考える～

事例集





## 目 次

はじめに	3
本事例集の見方	4

### 1 母語でつながる

事例1	「うん。かわいいでしょ！」	5
	～うれしい気持ちを母語で伝えて 心のつながりを～	
事例2	「手を洗ったら、ごはん」	7
	～友達からの母語での声掛けで前向きに～	
事例3	「スペイン語が話題になっている」	9
	～友達に母語を知ってもらうことのうれしさ～	

### 2 遊びでつながる

事例4	「きらきらぼし」	11
	～歌でつながるうれしさ、楽しさ～	
事例5	「助けて!」「待ってて!」	13
	～参加しやすい遊びから人と触れ合う楽しさを～	
事例6	「このお話、知ってるよ!」	15
	～絵本を友達と共有するうれしさ～	

### 3 文化の違いへの理解からつながる

事例7	「僕のランチ」	17
	～互いの文化の違いを受け入れる～	
事例8	「箸を使わないの?」	19
	～多様な生活スタイルを知る機会を大切に～	

## 4 保護者とつながる

- 事例 9 「僕の国の旗だよ」・・・・・・・・・・・・・・・・ 21  
～母国を大切にしたい環境づくりにより安心感を～
- 事例 10 「母国が同じ保護者同士の関わり」・・・・・・・・ 23  
～言葉が通じることの安心感～
- 事例 11 「韓国語講座で和気あいあい」・・・・・・・・ 25  
～言語の成り立ちを知り、保護者同士の関心が高まる～

## 5 小学校とつながる

- 事例 12 「学校ってこんなところ」・・・・・・・・ 27  
～事前体験を繰り返し、安心して1年生に～

エピソード（成長した子供たちの姿～小学校・中学校編～） ・・・ 29

園の生活や行事で活用できるイラスト・カット集 ・・・ 31

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

令和6・7年度愛知県幼児教育研究協議会・専門部会委員名簿・・・ 37

愛知県幼児教育研究協議会のあゆみ・・・・・・・・ 39

## はじめに

私たちは様々な出自や個性をもった人々がその多様性を活かしつつ共に暮らす『共生社会』に生きています。でも、これは今に始まったことではありません。

例えば、子供たちが楽しみにしている年中行事。お正月のお年玉、バレンタインデー、ひな祭り、端午の節句、七夕、盆踊り、お月見、ハロウィン、クリスマス、大晦日の除夜の鐘。この中でお年玉と盆踊りは日本生まれの風習のようですが、他はすべて日本以外の国に起源をもつと言われています。しかも、バレンタインデーに大好きな人にチョコレートを贈ったり、端午の節句には大空に鯉のぼりをあげたり、ハロウィンを何でもありの仮装大会にしてしまったりと、日本独自のユニークなアレンジを加えて私たちの文化の中に定着させてきました。

国際化が加速する現在、幼児教育施設に通う外国籍の子供も増加しています。愛知県内の幼児教育施設のうち、実に8割近くの施設に外国籍等の子供が在籍していることが、本協議会で行った調査で明らかになりました。ベトナム語やポルトガル語を始め、10を超える言語を母語とする国や地域で生まれた子供たちです。

日本の文化圏で生まれた子供たちと、それとは異なる文化圏で生まれた子供たちが、共に遊び、共に学ぶ世界がどんどん広がっています。その中で暮らす子供たちは、これからどんな新しい文化を創ってってくれるのでしょうか。異なった文化や風習が混ざり合い溶け合って、今を生きる私たちには想像もつかないような素敵な文化が、これからの未来社会にきっと生まれてくることでしょう。

子供たちのもつ多様性を伸ばし合い、お互いに豊かな影響を与えるような、そんな幼児教育を提供するための一助としてこの事例集を活用していただけることを、委員一同、心より願ってやみません。

令和8年3月

愛知県幼児教育研究協議会  
会長 山口 雅史



## 本事例集の見方

**目次**

事例 ○ タイトル ~サブタイトル~ ◇歳児 ○月 (在日△△月)

当該幼児の年齢、その姿が見られた時期 (当時の在日期間)

こんな時、どうするの? 当該幼児や保護者が困り感を抱える場面

こんなきっかけみつけたよ! 子供同士が気付いたり学んだりする機会と捉えた場面

\* に保育者の思いやねらいを表記しているものもあります。

**こうしたよ!**

- ・上記の場面における保育者の関わり
- ・環境の構成
- ・子供の姿 (表情、仕草、つぶやき等も含む)

等

・保育者の意図  
・保育者の関わりによって変容した子供の姿や思いの読み取り  
等

**ここが大事!**

事例を通して伝えたい、大切なポイントを簡潔にまとめています。

**コラム または 教材の紹介**

外国籍等の子供の保育に関連する情報や小学校での取組、保育の中で活用しやすい教材を紹介しています。

\*本事例集において、**外国籍等の子供**とは、国籍に関わらず、父・母のいずれか、又は、両方が外国にルーツをもっている子供のことを指します。



◎令和6年度愛知県幼児教育研究協議会において、今年度と同様の協議題のもとに、本事例集につながる調査や研究を実施し、リーフレットにまとめています。こちらも、是非ご活用ください。



\*令和6年度作成  
リーフレット

# 1 母語でつながる

## 事例 1

3歳児 5月(在日3年2ヶ月)

「うん。かわいいでしょ！」  
～うれしい気持ちを母語で伝えて 心のつながりを～

### こんな時、 どうするの？

A児は、父・母・兄・本児の4人家族で、外国籍である。  
日本で生まれ、家庭ではポルトガル語で会話をしている。

4月から入園したA児は、新しい環境に戸惑い、泣いて過ごすことが多かった。保育者は、物の名前や場所を伝える絵カードを準備してA児に示したが、A児は不安そうに保育者にしがみついていることが多かった。言葉が分からないことが不安要因になっている様子である。保育者は、A児となかなか信頼関係が築けないもどかしさを感じていた。

5月、クラスの友達が製作遊びを楽しんでいる中、A児はいつものように泣いて登園してきた。



### こうしたよ！

A児は、友達が楽しそうに製作コーナーで遊んでいる様子を、保育者にしがみつきながら見ていた。その姿を見て、「Aちゃん、(友達のところへ)見に行く？」と保育者がジェスチャーと共に声を掛けると、A児は小さく頷いた。



A児は保育者と一緒に製作コーナーへ行き、友達が遊んでいる様子をのぞき込んだ。保育者が「わあ。ハートだね！Aちゃんも作る？」と声を掛けたが、A児は無言のまま、じっと友達の様子を見つめていた。

しばらくすると、保育者の手を離し、さっと自分から椅子に座り、製作を始めた。A児は、好きな色の紙を何度もつかんでは散りばめて、ハートの形を作った。



そして、出来上がった時、A児が顔を上げたので、保育者が、「fofo（フォフォ）！かわいいね！」  
「Bom（ボム）！いいね！」と、うれしい気持ちを母語で伝えた。

すると、A児は保育者に向かってニコッと笑い、とてもうれしそうな表情を見せた。保育者も笑顔で返した。

保育者の気持ちを母語で伝えたことで、A児は自分の気持ちを分かってもらえたと感じていました。互いの気持ちが通じ合い、心のつながりとなりました。



**ここが大事！**

**気持ちを伝える母語を使うことで、信頼関係が生まれます**

子供が「自分の気持ちを分かってもらえた」「うれしさに共感してもらえた」と感じるような、うれしくなる言葉や褒める言葉を母語で伝えることは、信頼関係を築くためにも有効です。

## コラム 心を表す絵カードを活用しています

子供の気持ちを理解したり、保育者の思いを伝えたりするために絵カードを活用しています。イラストがあることで、言葉が分からなくても、伝えたいことが伝わりやすくなります。

外国籍等の子供を園で受け入れる際に、物や場所等を示すイラストを事前に準備することはよくありますが、コミュニケーションを取る際に活用できる【気持ちを表す絵カード】は、当該幼児との信頼関係を築いていくことにもつながる有効な手立てです。（31 ページ参照）



【声を掛けながら、提示する絵カード】

# 1 母語でつながる

## 事例 2

### 「手を洗ったら、ごはん」 ～友達からの母語での声掛けで前向きに～

3歳児 4月(在日3年10ヶ月)

#### こんな時、 どうするの？

4月から入園した3歳児のA児は、これまで、家庭ではポルトガル語でやり取りをして過ごしてきており、集団生活も初めてである。

そのため、言葉が分からないことや、生活の仕方が分からないこと等が様々あり、よく不安そうな表情をしていた。保育者は、登園時に身の回りの始末ができるよう、タオルかけ、ロッカー、机等にA児のマーク（トンボ）を貼り、見て分かる環境をつくるとともに、簡単な母語を使いコミュニケーションを図っていた。A児は、やりたいことを見つけ、遊び出せるようになったものの、周囲の子が片付けを始めると落ち着かなくなり、泣いてしまうことが多かった。

#### こうしたよ！

保育者は、保護者から家庭で使っている生活に必要な母語を確認しておき、園生活の中でも使うようにしていた。

片付けの時間になり、泣き出したA児の思いを受け止めつつ、今の状況を「Arrumar（アフマ）」（＝片付け）と母語で伝えた。それだけでは分からない様子だったので、A児のマーク（トンボ）の付いた机を指差し、食事の絵カードを見せ、保育者が「Almoço（アウモソ）」（＝昼食）と言うと、うなずく姿は見られたものの高ぶった感情はおさまらず、他の部屋まで泣く声が響き渡った。

この声が聞こえ、いつも同じ母語で挨拶を交わしたり、A児を気にかけていたりしているB児が部屋に様子を見に来た。日頃の関わりもあるため、保育者はB児を招き入れた。すると、B児を見たA児は、少しずつ落ち着きを取り戻していった。

聞き慣れた、自分と同じ母語を話すB児は、A児にとって、安心できる存在のようでした。クラスや学年は違っても、心配して様子を見に来た姿を保育者が受け入れ、A児が安心できるようにしました。



落ち着いてきたところで、保育者は生活の流れが分かるように「手を洗ったら、ごはんだよ」とやさしい日本語で声を掛けると、B児が同時に「Lavar a mão para comer (ラバ ア マオ パラ コメ)」(=食べるために手を洗うよ)と母語で話しかけた。

A児は、その言葉が分かったようで、「Almoço (アウモン)」と言い、気持ちを切り替えることができた。B児もA児の表情が明るくなったのを感じ取り、安心して自分の部屋に戻っていった。



その後、保育者と一緒に片付けや手洗いをしたA児は、給食をおかわりするほどよく食べ、前向きな姿が見られた。

日本語と母語を同時に耳にすることで、A児の言葉の理解につながりました。B児と保育者が母語で寄り添うことで、A児は自分から声を発し、前向きになれました。



**ここが大事!**

## 母語でのコミュニケーションで前向きになれます

自分に温かく接してくれる保育者や友達との関わりは、心の支えとなり前向きな姿勢で園生活を送れるようになります。加えて、相手を思いやる母語は心に届く言葉となり、安心感・くつろぎを与えます。

また、友達の不安な表情をキャッチし、寄り添おうとしている周囲の友達は、かけがえのない存在です。そのことを保育者も把握しながら、子供同士の育ち合いを大切に、温かい目で見守っていきましょう。



## コラム 家庭で使っている言語が安心感につながります

入園の際に、園生活に必要な言葉について、保護者から普段どのような言葉で伝えているか聞き取りをすることが、とても大切です。

外国籍等の子供とコミュニケーションを取る際、母語を使うことは有効ですが、特に“家庭で使われている言語”を使うとより伝わりやすく、安心感につながります。

“片付け”は  
何と言いますか？

Arrumar  
(アフマ)



## 1 母語でつながる

### 事例 3

5歳児 6月(在日6年)

### 「スペイン語が話題になっている」 ～友達に母語を知ってもらおうことのうれしさ～

#### こんなきっかけ みつけたよ！

スペイン語を母語とするA児は、日本語を聞いて理解することは何とかできるが、園で話す時は、母語を使うことはなく、日本語の単語をつないで伝えようとしている。また、保育者が意を汲んで代弁すると、うなずきや指差しなど、態度でも表すことができる。

A児の母親は、片言の日本語で会話ができ、言葉を探しながら、なんとか保育者とやり取りができる。

クラスの友達に、本児に対する理解と関心を深めてほしいと考えていたところ、A児の母語に触れる機会をダンス遊び（歌の歌詞）から見付けた。

#### こうしたよ！

6月、園の近くの文化会館で「マツケンサンバコンサート」が開かれ、園内でも話題になっていた。

ちょうどその頃、9月に園隣接の別の施設で開催されるフェスティバルに、実技発表という内容で年長児に参加依頼がきた。保育者は子供たちと出し物について相談をした。

様々な考えが出る中、保育者からも「マツケンサンバ、踊るのはどうかな！」と提案すると、「おもしろそう！いいね！」「手に何か持つことにする！？」など子供たちから意見が出た。ダンスの振り付けをして音楽に合わせて動く中で、「オーレッ」や「アミーゴ」などのタイミングで声を出すことになった。すると「アミーゴ」はどんな意味だろうという疑問が出てきた。

そこで保育者は「この言葉はスペイン語なんだけど、Aちゃんのお母さんはスペイン語を話せるから聞いてみるね」と、子供たちに伝えた。



翌日、「アミーゴは友達、女友達はアミーガって言うんだって」とA児の母親と話した内容を子供たちに伝え、「へ～っ」と興味をもって聞き入った。

その後、クラスの中で、その言葉を使ってみたくなり、友達同士「アミーゴ、アミーゴ！」と声を掛け合う姿が見られ、A児は「アミーガ！」と声を掛けられ、周りから注目された。

その日の降園時、友達の中でスペイン語が話題になっていることがうれしかったのだろうか、昇降口で保護者の迎えを待っている時に「スペイン語・・・」とA児が笑顔でつぶやいた。翌日から、「踊ろう！」と一番に声をあげるA児の姿が多く見られるようになった。

クラスでA児の母語に触れる機会をつくりました。友達に認めてもらえた経験から、自分から進んで行動する姿が見られるようになりました。



【マツケンサンバを踊るA児】



「アミーゴ！」  
「踊ろう！」

ここが大事！

母語を大切にすることが、  
外国籍等の子供の伸びようとする力を後押しします

外国籍等の子供の言葉に対する援助は、日本語に親しめるようにするばかりではなく、当該幼児の母語へ歩み寄る工夫も必要です。外国籍等の子供にとっては、自分のことを理解してもらえる喜びから、友達との関係づくりなど次の行動力につながっていくことも考えられます。また、クラスの子供たちにとっては多様な言語への関心や興味につながり、多様な文化に触れる機会にもなっていきます。

## コラム 外国籍等の子供の母語が多様化しています

令和6年度に実施した「外国籍等の子供の在籍状況調査」の結果によると、本県の園に在籍する子供の母語が多様化しています。なかには、普段、耳にする機会が少ない言語もありますが、どのような言語でも、子供が安心して園生活を送れるよう、母語を大切にすることが必要です。



\*幼児教育施設における  
外国籍等の子供の在籍  
状況調査まとめ

## 2 遊びでつながる

### 事例 4

### 「きらきらぼし」 ～歌でつながるうれしさ、楽しさ～

5歳児 6月(在日3～5年)

こんなきっかけ  
みつけたよ!

クラスには、中国語・ポルトガル語・英語を母語とする子供がいる。保育者は、生活や遊びの中にそれぞれの母国のことを取り入れ、子供たちが様々な国に興味や親しみをもってほしいと願っていたが、よい方法が見つからずいた。

七夕の話題や星のことについての会話が增えた頃、A児が母語の中国語で『きらきらぼし』を歌い始めた。保育者は「日本でも同じ曲の歌があるよ」と、日本語の『きらきらぼし』の歌を歌った。



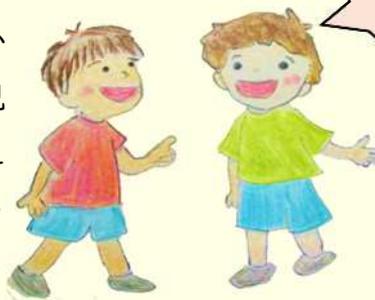
こうしたよ!

A児が『きらきらぼし』の歌を口ずさんだことをきっかけに、「他の国にも『きらきらぼし』の歌があるのかな?聞いたことあるかな?」と、子供たちに尋ねた。すると「聞いたことあるよ」「知ってる」「英語でもあるよね」など、日本以外の国でも『きらきらぼし』の曲が広く歌われていることが分かった。保育者もいろいろな国の『きらきらぼし』の歌を調べ、在園児の別の母語でもこの歌を保育に取り入れるようにした。

生活や遊びの中で保育者が口ずさむと、子供たちも真似をして歌いながら、言葉を覚えることが楽しくなっているようだった。分からない言葉があると、A児たちに「〇〇ちゃん、教えて」と、言葉を教えてもらった。

『うた』って  
なんて言うの?

『A song』っ  
て言うんだよ



よく知っている歌だからこそ、日本語以外の言葉でも歌ってみたいと思ったようでした。歌を通して、外国の言葉への興味関心を広げていました。



様々な国があることや、国によって言葉が違うことを知り、引き続き『きらきらぼし』をみんなですごうことを楽しんだ。

A児は、時に先生役になり『ワールドきらきらぼしコンサート』として、みんなの前でタクトを振ってごっこあそびを楽しむ姿も見られた。



【踊りながら歌を楽しんでいる様子】

様々な国の言葉に触れる面白さも感じながら、さらにそれを自分たちの遊びに取り入れて、楽しい遊びを考えています。



**ここが大事！**

### 一緒に歌う楽しさが、心を通わせます

言葉を覚えることや使うことだけでなく、リズムや歌に母語を取り入れ、歌を通して心を通わせる心地よさを感じられるような工夫が大切です。このような活動を通して、当該幼児は母語を大切にされているという安心感やうれしさを感じます。

### コラム 遊びのアイデア（外国語でも歌われる曲）

日本語でも、外国語でも歌われる歌を紹介します。全ての言語で歌われているわけではありませんが、聞き馴染みのあるメロディーで、子供同士がつながり、共に楽しめる教材になります。

🎵 「あたま・かた・ひざ・ポン」

🎵 「メリーさんのひつじ」

🎵 「グーチョキパーでなに作ろう」

🎵 「幸せなら手をたたこう」

🎵 「ゆかいな牧場」

🎵 「10人のインディアン」

🎵 「ロンドン橋」

🎵 「ドレミのうた」

🎵 「アルプス一万尺」

🎵 「ともだち賛歌」

## 2 遊びでつながる

### 事例 5

4歳児 11月(在日1ヶ月)

「助けて!」「待ってて!」  
～参加しやすい遊びから人と触れ合う楽しさを～

こんなきっかけ  
みつけたよ!

10月に来日したA児は、日本語が全く分からないまま入園してきた。毎日、製作コーナーで、一人で絵を描いたり空き箱などの材料を使い、思い付いたものを作ったりして過ごしており、日本語はもちろん母語を発することもほとんどなかった。11月になって、好きな遊びをする時間は一人で過ごすことが多かった。ただ、昼食前にロンドン橋等の遊び方が分かりやすいゲーム遊びやわらべ歌遊び等をしていると、最初は保育室の隅で様子を見ていたが、参加するようになった。

A児には、“やってみたい”と心を動かして遊ぶ中で、保育者や周りの友達と触れ合う心地よさや楽しさを感じてほしい。



こうしたよ!

鬼ごっこの「どろけい」で遊ぶことが好きな子供たち。園庭で、数人の子供と保育者とでどろけいが始まると、A児は鬼ごっこをしている様子が見える外の階段に座った。



保育者は「タッチ。牢屋(ろうや)だね」「助けて」などと動きに合わせた身振りと簡単なワンフレーズの言葉をつけながら遊び、楽しい雰囲気をつくるようにした。

数日後、保育者が誘いかけると、A児はどろけいに参加した。保育者は、牢屋からA児に「助けて」と叫んだり、捕まって牢屋にいるA児に、「Aちゃん、待ってて。今行くよ」と名前を呼んで助けに行ったりして一緒に遊んだ。

遊び方が見て分かりやすい鬼ごっこを取り入れたことで、A児は、興味を示しました。



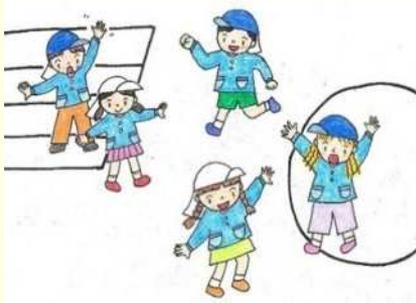
A児は、保育者や友達を楽しそうに遊んでいる様子を見るうちに遊び方が分かり、心が動いてきたようでした。



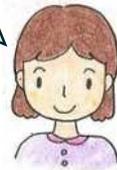
次第にA児は自分からどろけいに参加するようになった。

A児は、警察に捕まり牢屋に入ると「助けて！」と周りの友達に助けを求めたり、牢屋に入った友達が「助けて！」と叫ぶと、陣地から「待ってて！」と応えて助けに行ったりするようになった。同じチームの友達と目を合わせて、にっこりしたり、「ありがとう」と声を掛け合ったりし、友達と簡単な言葉

(日本語)を交わし合いながら、一緒に遊ぶことを楽しむようになった。



A児とクラスの友達が、一緒に遊ぶ仲間として互いの存在を意識できるよう、保育者は関わってきました。そうすることで、A児は、簡単な言葉で応答しながらクラスの友達と触れ合って遊ぶことを楽しむようになりました。



**ここが大事!**

見て分かりやすい遊びは、参加しやすく  
人との自然な触れ合いが生まれます

言葉が全く分からない場で生活することは、不安がいっぱいです。生活面だけでなく遊びも視覚的に分かりやすい環境づくりをして、安心して取り組めるようにすることが大切です。遊びを通して、人との自然なコミュニケーションが生まれるようにして、つながりの心地よさを感じられるようにしていきましょう。

## コラム 遊びのアイデア(外国じゃんけん)

外国籍等の子供も見て分かりやすい遊びの一つとして、「じゃんけん」があります。当該幼児の母語でのじゃんけんの遊び方を取り入れてみるのも、つながるきっかけとなります。日本の子供も馴染みがあるので、取り入れやすい遊びの一つです。



【台湾語バージョン】



【英語バージョン】

掛け声は、  
「Rock Paper Scissors  
1 2 3!」



## 2 遊びでつながる

### 事例 6

### 「このお話、知ってるよ！」 ～絵本を友達と共有するうれしさ～

5歳児 1月(在日2年)

こんなきっかけ  
みつけたよ！

2年前にほとんど日本語が分からない状態で入園したA児。保育者はA児が日本語を身に付ける上で、家庭で使う母語が大切であると考え、日頃からA児への言葉掛けの中に母語(韓国語)を取り入れるようにしてきた。

保育者が絵本の読み聞かせをしていると、A児は日本語が分からないながらもクラスの友達と絵本を見ながら、その場面の面白そうな様子や雰囲気を楽しんでいた。少しでも物語の世界に入って楽しめるよう、保育者は絵本に出てくる簡単な単語をA児にも分かるよう、韓国語を添えながら読むように心掛けていた。



クラスの子供たちに、絵本を通してA児の母国の文化に触れる機会がもてるようにしたい。

A児にも、母国の親しみのある物語の世界を楽しんでほしい。



こうしたよ！

日本語と韓国語と両方の言葉で物語が楽しめる絵本はないかと探し、A児の保護者に相談すると、日本の昔話と似ている韓国の昔話「フンプとノルブ」を提案してもらった。どちらの言語も話せるA児の保護者にも協力してもらい、読み聞かせをすることにした。

数日は保育者が日本語で何回か読み聞かせたり、A児の家にある絵本を皆が見られるように保育室に置いたりした。興味をもち、絵本を開いて見ている子もいれば、A児が「これ、Aの絵本なの。このお話、知ってるよ」と友達にうれしそうに伝え、一緒に見たりすることもあった。

言語が違って、絵や場面からイメージをもつことができる絵本であれば、楽しさを共有できると考えました。





【読み聞かせの場面】

A児の保護者による韓国語での読み聞かせの日、子供たちは身を乗り出して絵本に見入っていた。初めて韓国語を聞く子は「韓国語、かっこいいね」と声にする姿もあった。読み聞かせを聞き、絵を見ながら、お話の世界をイメージしている様子もあり、「やさしいね」「仲良くなってよかったね」と友達同士で話す姿も見られた。

A児の保護者による韓国語での読み聞かせの日、子供たちは身を乗り出して絵本に見入っていた。

初めて韓国語を聞く子は「韓国語、かっこいいね」と声にする姿もあった。

あらかじめ、絵本のストーリーや話の展開の面白さを知っておくことで、A児も含めて皆で一緒にイメージを膨らませて韓国の昔話を楽しむことができました。



ここが大事！

絵本は文化の違いを超えて、皆で一緒に楽しめます

絵本は国境や世代を越えて、いろいろな国の物語に出会えます。言葉が分からなくても、その絵本の世界に広がる楽しさを共有することができます。また、それぞれの国の物語には、文化的な背景が描かれ、絵本を見ることを通して、子供たちはその国の文化に触れることができます。園生活の中で毎日親しむ絵本は、子供が言葉や文化の違いに関わらず、友達と共に楽しめる教材として活用できます。

### 解説 韓国の昔話「フンブとノルブ」（あらすじ 紹介）



昔々、欲張りな兄のノルブと心優しい弟のフンブが一家共々一緒に暮らしていました。両親亡き後、ノルブはフンブ一家を追い出していました。

ある日、フンブは足を怪我したツバメを助きました。

元気に回復したツバメは、フンブにウリの種を贈り、その種から育ったウリを切ると、中から米と財宝が現れ、フンブ一家は裕福になりました。

話を聞いたノルブは、わざとツバメの足を折り種をもらい育てます。しかし、ノルブがウリを切ると、恐ろしい鬼（トッケビ）が現れ、財産を奪いました。

全てを失ったノルブに心優しいフンブは米と食べ物を分け与えました。ノルブは涙ながらに謝罪し、その後、兄弟は家族と共に幸せに暮らしました。

❖日本の昔話と同様に、子供は登場する人物の言動から、善悪の判断や生き物を大切に作る心、相手への思いやりなど、様々なことを感じ取っていきます。

### 3 文化の違いへの理解からつながる

#### 事例 7

#### 「僕のランチ」 ～ 互いの文化の違いを受け入れる ～

5歳児 6月(在日11ヶ月)

こんなきっかけ  
みつけたよ！

A児は、父、母、弟の4人家族である。家庭では、ほぼ英語で会話をしている。園では、少しずつ覚えてきた日本語を使って気の合う友達に思ったことを伝え、一緒に遊ぶことを楽しんでいた。保育者は、様々な国の生活や食文化の分かる掲示物や絵本をいつでも見られるようにしておいた。

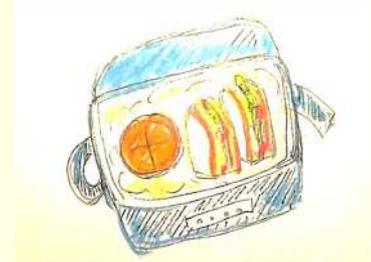
園の昼食は、普段は給食だが、年に数回、弁当持参の日がある。秋の遠足の日、子供たちは、待ちに待った弁当を食べようとしていた。



こうしたよ！

「僕は、おにぎり！」「私はオムライス！」「私はお母さんが作ってくれた大好きな卵焼き！」と、子供たちはうれしそうに見せ合ったり、食べ始めたりしていた。A児はランチボックスを取り出した。保育者は、『A児は洋風の弁当なんだな』と思いながら、他の子供たちが見せる弁当を見たり、話を聞いたりしていた。

すると、「あれ？これ、持ってきていいの？」とB児の声がした。保育者が目を向けると、B児がA児の持って来た切り込みの入った丸ごとオレンジを指差していた。A児は困った顔をしていた。



【オレンジやサンドイッチが入ったランチボックス】

保育者は、「あら、A児はサンドイッチとオレンジだね。おいしそう！」と声を掛けた。A児は、ぱっと表情が明るくなり、顔を上げた。C児が、「こういうのって、『ランチ』って言うんでしょ？」とA児に聞いた。するとA児が、「そうだよ。イギリスでは、給食はないんだ。いつもお昼は持って行くんだよ。こういう僕の好きなサンドイッチとかね。お母さんが作ってくれるんだ」とうれしそうな表情で話した。

C 児が「僕もサンドイッチ好き。今日はおにぎりだけだね」と言うと、B 児が「僕も好き。フルーツは、ママが切ってくれるけどね」と笑った。

A 児は、ほっとした表情で、おいしそうにサンドイッチを食べ始めた。



保育者が、「おいしそう！」と肯定的に受け止めたことで、周囲の子供たちは、イギリスの昼食を肯定的に捉えました。また、A 児のランチの説明を聞いて、B 児やC 児は文化の違いを受け入れました。



**ここが大事！**

文化の違いを肯定的に受け入れることで、  
友達への親しみが深まります

子供たちが文化の違いに気付いた時には、保育者が関心を寄せて聞いたり、肯定的に受け止めたりする姿を見せていくことが大切です。そして、子供が文化の違いの面白さを伝え合ったり、違いを受容し共感したりできるよう支えていくことも大切な援助です。

## コラム このような環境の工夫をしています

在籍する園児の母国について親しむことのできる絵本を置いたり、地図などを掲示したりしています。多目的の保育室に設定し、誰でも見たい時に見たり、触れたりできるようにしています。

世界の様々な国への関心が広がり、どの子も大切にされていることが伝わります。



【 多国籍の子供たちを大切にしたい保育室の掲示（壁面） 】

### 3 文化の違いへの理解からつながる

#### 事例 8

「箸を使わないの？」  
～多様な生活スタイルを知る機会を大切に～

5歳児 10月(在日5年)

#### こんな時、 どうするの？

9月から転園してきたA児。生まれた時から日本で生活しているのに日本語はある程度理解できるが、食事の際、家庭では箸を使わない生活スタイルであった。

給食の際、A児が米飯をスプーンで食べている様子を見て「箸を使わないの？」と、クラスの友達が何気なく聞くと「使えるわ！」と怒ったように答え、ぎこちなく箸を持ち食べようとしていた。保育者はスプーンでの食事の経験が多いと思い「スプーンを使ってもいいんだよ」と声を掛けるが、頑なに箸を使おうとしていた。



#### こうしたよ！

保育者は、食事の仕方や食具の使い方について子供たちの考えを聞いてみようと思い「スプーンやフォークは使ったらいけないのかな？」と、問いかけた。子供たちは「スープはスプーンを使って食べる」「ご飯は箸で食べるけれど、カレーはスプーンで食べるよね」「手で食べる人も見たことあるよ」など知っていることや、経験のあること等を伝え合った。



その後も、保育者は日々の保育の中で、運動会で使った万国旗を用いたり、A児の好きな料理を聞いたりしながら、子供たちが興味をもった国の食文化や生活スタイルについて話し、給食を食べながら日本食についても話していった。

食具の使い方について話し合うことで、いろいろな食事の仕方があることに気付いてほしいと思いました。



A児も周りの友達も、互いの生活スタイルについて知り、親しみの気持ちをもつようになりました。



子供たちは、給食のメニューを見ながら「今日は何を使って食べる？」と、A児と話して考え合う姿も見られるようになった。



【会話を楽しみながら食事をしている様子】

子供同士の関係が深まってくると「Aくん、箸使うの上手だね」とA児が箸を使う姿を認めたり、進んで箸を使って食べようとしたりする子もいた。A児もスプーンや箸を食事に合わせて使い、笑顔で食事をする姿が増えた。

A児にとって認められることがうれしく自信となりました。また、箸を苦手としている子も使ってみようとする意欲が高まりました。



**ここが大事！**

多様な生活スタイルを知ることが、文化の違いを受け止める心を育むことにもつながります

いろいろな料理があり、食べ方について知ることが“多様な生活スタイル（文化）がある”と文化の違いを受け止めるきっかけとなります。園生活の中では、文化の違いによる戸惑いを抱く場面もあります。そのような場面を保育者は見逃さず、子供たちが多様な生活スタイルや文化との出会いの機会としていけるように努めていきましょう。

**コラム 給食を通して他国の食文化に触れています**

県内の学校給食では、様々な国で親しまれている料理を給食向けにアレンジして提供しているところがあります。万国博覧会やアジア・アジアパラ競技大会をきっかけに、食を通して、様々な国に興味関心が広げられるよう取組の工夫をしています。

＜西尾市学校給食センター作成のタイ料理の啓発資料＞



## 4 保護者とつながる

### 事例 9

### 「僕の国の旗だよ」 ～母国を大切にしたい環境づくりにより安心感を～

5歳児 10月(在日1年4ヶ月)

こんなきっかけ  
みつけたよ！

既製の万国旗を園庭に飾った翌日、A児のクラスの保護者が、「昨日万国旗を見て、A児のお母さんが、『母国の旗がない。悲しい』と言っていました」と教えてくださった。A児の保護者の気持ちを聞き、在籍する子供の母国を確認せず既製の万国旗を飾ってしまい、母国を大切に思う気持ちへの配慮が足りなかったと反省した。



A児のクラスには、外国籍の子供が複数いる。いろいろな国に興味をもてるようにと国旗の絵本を用意したところ、友達と一緒に絵本を見ながら気に入った国旗を見つけて描くことを楽しむ姿が見られた。そこで、子供たちが友達の国の旗に関心をもつきっかけにできないかと考えた。

A児の保護者には、園がどの国も大切にしていることを感じ、園に信頼をよせてほしい。

A児やクラスの子供たちには、自分や友達の母国に対する関心や親しみをもってほしい。



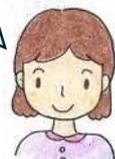
こうしたよ！

飾ってある万国旗を友達同士で見ている様子があったので、保育者が「A児の母国の旗ってどんな旗かな？」と、A児や周りの子供たちに向けて、何気なくつぶやいた。周りの子供たちとA児は関心を示し、国旗の絵本を持ってきてA児の母国の旗を探し始めた。

保育者は周りの子供たちと一緒に、国旗の絵の下に書いてある国名を読みながら探していると、



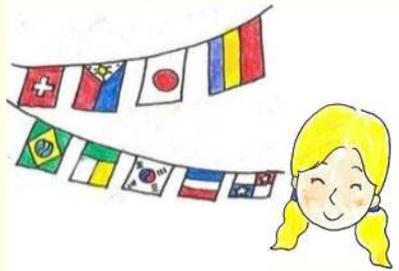
保育者の投げかけにより、A児にとっては“自分の母国”、周りの子供たちにとっては“クラスの友達の母国”の旗に興味をもつきっかけになりました。



B児が「あった。これだ!」と、A児の母国の国旗を指して声をあげた。その声に、周りの子供たちもA児も絵本をのぞき込んで見た。

その後、A児は絵本を見ながら母国の国旗を描いて、得意げに保育者に見せに来た。

運動会当日、子供たちが描いた旗を園庭に飾った。登園してきたA児の保護者は、子供たちが描いた母国の旗を見つけ、うれしそうに微笑んだ。



A児が描いた母国の旗を飾ったことで、保護者は、他の国と同じように母国が大切にされていることを感じ、ほっとしたように思います。



**ここが大事!**

**母国を大切にした環境づくりが保護者の安心感につながります**

誰にとっても自分の母国は、一番大切に心を寄せています。特に異国で暮らしている外国籍の人にとっては、母国に寄せる思いはひとしおです。

そのことを保育者が常に心にとめて周りの環境を見直し、母国を大切にした環境づくりをすることで、自分の母国(=自分)が大切にされていると感じます。それが、信頼関係を築くことにもつながっていきます。

## コラム 保護者に伝えたい(園の取組や子供の様子)

外国籍の保護者は、自国で幼児期を過ごしたため、日本の幼児教育施設での過ごし方を知らないことが多いです。生活の流れ、行事等、会話や文書で伝えても、イメージしきれないことがたくさんあります。

そのため、実際の園の様子を見てもらうことが有効です。保育参観のような機会を活用すること以外にも、日頃の保育の様子を動画や写真に撮って送迎時に見せたり、保護者の都合がつけば、行事でない時でも、園生活を見に来てもらったりするとよいです。園での子供の様子が分かり保護者の安心感につながります。園としても、家庭とどのように連携するとよいか、保護者と共に考えていく機会になります。



## 4 保護者とつながる

### 事例 10

### 「母国が同じ保護者同士の関わり」 ～言葉が通じることの安心感～

5歳児の保護者 5月(在日6ヶ月)

#### こんな時、 どうするの？

5月に入園したA児は、日本へ来て半年であり、父親は日本語が理解できるが、母親とA児は理解できない。

園からのおたよりは家庭へ配信しており、送迎の際に、A児の母親には翻訳アプリ等を活用し、配信した内容を伝えている。しかし、母親の表情から全部は理解できていない様子が感じられた。

入園から一週間後、園行事でミニ運動会が行われることになった。

#### こうしたよ！

ミニ運動会は、親子参加の行事で通常の保育時間を短縮して午前活動で降園となる。

朝、親子で登園してくるA児を受け入れると、手に弁当を持っており、母親に手を振って別れようとしている。ミニ運動会では園児のかげっこや親子で一緒に取り組む競技プログラムがあるため「お母さん、今日は園と一緒に活動できますか？」と声を掛けた。母親は、よく分からない様子だったが、帰らずに園庭で待ってくれることになった。

保育者は母親に「今日はAちゃんが走るよ(かけっこ)」とジェスチャーで伝えたが、今日がどんな日なのか伝わっていない様子だった。親子競技と一緒に大玉転がしの競技にも参加してもらいたいが、どう理解を進めるべきか考えた。

そこで、他学年の保護者ではあるが、A児の母親と同じ国の出身で、日本語が堪能なB児の母親の存在を思い出した。



同じ母語をもつ保護者の存在を知らせ、つながりがもてるように仲介しました。



B児の母親にお願いをすると、快諾し、すぐにA児の母親に今日の園での活動について説明をした。A児の母親は疑問だったことを尋ねながら、大きくうなずき納得の笑顔を見せた。

B児の母親がスマホを取り出し、連絡先の交換を提案し、二人は連絡が取り合えるようになった。



【保護者同士で連絡先を交換】

A児の母親は、分からないことを質問でき、安心したようでした。また、「どの地域の出身？」などと尋ね、同じ国籍の人に出会えるうれしさを感じているようでした。



ここが大事！

### 様々な連携先を探り、つながっておくことが大切です

園で通訳は簡単には手配できませんが、園に同じ母語をもつ保護者がいれば、協力をお願いできることもあります。また、市役所などに外国語支援の人材が配置されているかどうかという情報を園として把握しておき、日頃から連携を図っておくことも大切です。外国籍の保護者が孤立しないように支援していく必要があります。

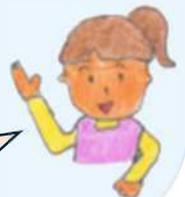
### コラム 保護者をつなぐ様々なサポートがあります

保護者が周りにつながれるよう、各園で工夫していることがあります。

当園では、同じ国籍の子供が触れ合える機会を設けつつ、保護者同士もつながるように仲介しています。母語や母国の文化が分かる人と交流を重ねることで、保護者が言語や文化の違いから抱く困り感の軽減の一助としています。また、行事の際に先輩の外国籍の保護者に通訳として手伝ってもらうこともしています。



私たちの園では、外国語の話せる保育士人材を雇用することで、日々の活動や保護者とのコミュニケーションがよりスムーズに進められるようにしています。



## 4 保護者とつながる

### 事例 11

### 「韓国語講座で和気あいあい」 ～言語の成り立ちを知り、保護者同士の関心が高まる～

5歳児 2月(在日2年)

#### こんなきっかけ みつけたよ！

韓国語が母語のA児の母親は日本語を話すことができる。A児の国の文化を他の保護者へも知らせ、多文化に触れる機会を作るため、5月の学級懇談会で、自己紹介を母語でしてもらうと、保護者の間にどよめきが起こった。趣味が韓国ドラマを見ることと話す保護者も多く、韓国は保護者にとっても関心が高いように感じた。耳にしたことのある他国の言語を取り上げることで保護者同士がつながるきっかけにできないかと考えた。



#### こうしたよ！

10月の焼き芋会に、手伝いとしてA児の両親が参加し、他にもサポーターの保護者が参加した。焼き上がりを待つ間、A児の母親が韓国にいた話をすると、日本語が上手なことに周りの保護者が驚いていた。保護者同士をつなぐ場として、韓国語講座の開催を提案すると、保護者からは「面白そう、参加したい」と声が上がった。その場でA児の母親に、挨拶やドラマでよく聞く簡単な言葉を知りたいとお願いし、講師を引き受けてもらった。

2月、講座開催の当日、A児の母親は自身で作成した資料をもとに、韓国でよく使われる挨拶やハングル文字の由来や仕組みを分かりやすく説明した。なかでも参加者の関心を集めたのは、平仮名で書いた我が子の名前を、ハングル文字に変換することだった。



積極的に園のイベントに参加してくれるA児の保護者と他の保護者をつなぐツールとして、韓国語を活用したいと考えました。



たくさんの保護者が「韓国語講座」に関心をもち意欲的になったことを受けて、A児の母親に直接お願いしたことで、講座開催が実現しました。



ホワイトボードや資料を見て書き表しながら  
「この文字は日本語の何になるのか?」「どう  
読むのか」など、A児の母親や参加者同士、  
やり取りを楽しんだ。

また、数字の読み方や書き方を教えてもらったり  
ジャンケンと一緒にやったりして、和気あいの  
時間となった。

講座後、ほっとした表情のA児の母親は、参加者から「また教えて」「2回目は  
あるの?」など声を掛けられ、はにかみながらもうれしそうな表情になった。



【ハンゲル文字を教えるA児の母親】

**ここが大事!**

## 笑顔のコミュニケーションで保護者同士がつながります

保護者同士をつなぐきっかけ作りは、保護者の得意なこと、興味関心がある  
こと、趣味嗜好などいろいろあります。互いが尊敬し合えるきっかけを見付け  
出し、積極的に機会や場を作っていくとよいです。

保護者同士の関わりは、対面で互いの表情を見ながら  
コミュニケーションが図れるよう支援していきましょう。



## コラム 保護者に伝えたい（家庭では母語での会話を大切に）

保護者への支援の一つで大切にしたいことは、「保護者が一番得意な言葉  
を家庭で使うようにする」ということです。日本語以外の母語を話す保護  
者は、日本語が十分習得できていない場合でも、我が子が少しでも日本語  
が分かるようにと、片言の日本語を話そうとすることがあります。しかし、  
家庭では保護者の得意な言葉（母語）で会話をし、子供が母語をきちんと  
習得することが大切です。幼児期は家庭でも園でもたくさんの言葉のシャ  
ワーを浴び、言語を獲得していく時期です。この時期に、子供と保護者と  
が意思疎通を図るための言語を獲得していくことが必要です。

幼児期は、保護者との意思疎通がうまくいかないという問題に直面する  
ことはほとんどありません。しかし、2つの言語が年齢相応に達していな  
いと、小学校以降に保護者へ自分の複雑な感情や考えを伝えられないとい  
う問題が表面化することがあります。このことを、保育者が理解しておく  
ことが重要です。今、目の前にいる子供たちに対して、先を見据えた適切  
な関わり方を考えていくことが求められます。

## 5 小学校とつながる

### 事例 12

### 「学校ってこんなところ」 ～事前体験を繰り返し、安心して1年生に～

5歳児 11月(在日5年)

#### こんな時、 どうするの？

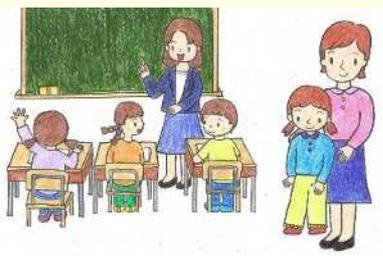
保育園に3年間在籍したA児は、小学校入学に不安を感じていた。自宅を引っ越すことになり、園で一緒だった友達と離れ、一人だけ別の小学校へ入学することになったことが大きな理由と考えられる。そんなA児を見て、母も不安になり、入学予定の小学校に11月頃相談の電話を入れた。

電話を受けた小学校は、A児と母親が学校の様子を知り、少しでも安心して4月を迎えられるよう、学校体験の場をもつことにした。



#### こうしたよ！

A児と母親から不安に思っていることを聞き、それに関わる場面を見たり体験したりしながら、安心材料が伝えられる場を複数回設定した。A児、母親とともに1年生の授業の様子を見学し、休み時間には子供たちの近くまで行った。A児は教科書に興味を示したり、1年生に話しかけられると、うれしそうにしたりしていた。



担当の教師が学校生活の様子を説明しながら、市の母語支援員に母語でも伝えてもらった。また、支援員が不在の際は、タブレット端末の翻訳機能を使って説明した。特に保護者が不安だったのは、下校のことだったため、支援員が同行し、登下校についての母親の不安を聞きながら、実際に下校を体験してもらった。

園とは大きく違う授業のことを伝えるとともに、タブレット端末を操作したり、休み時間に友達と遊ぶ様子を見たりする経験を通して、楽しさが伝わり、学校への不安が和らいだようでした。



実際に見たり、説明を受けたりした場面を共有することで、園でも援助の工夫ができるようにしました。



在園している保育園には、A児と母親が不安に思っていることと、小学校で見た場面や伝えた説明を共有した。

入学後のA児は、とても落ち着いて学校生活を送っており、不安を払しょくして入学することができた様子である。また、母親は、体験の場で小学校の先生とつながりができ、その先生に自分から挨拶したり、話しかけたりしていた。



**ここが大事!**

## 本人と保護者双方の安心が スムーズなスタートにつながります

説明会のような、情報を得る場は必要ですが、経験のないことや見聞きしたことのないものだと、自分ごとになりにくかったり、具体的にイメージしにくかったりする場合があります。本人、保護者の不安を聞き、それを学校の実際の場面で見たり体験したりすることで、安心につながります。就学する小学校には、どのような支援体制があるのか、事前に園から確認することも大切です。

## コラム 小学校では、こんなサポートもあります

各学校の外国人児童等の在籍状況により、体制は様々ですが、実際に県内で行われている支援について一部紹介します。

### 【音声教材による学びの向上】

小学校では「音声教材」を活用しているところがあります。漢字やカタカナの混ざった日本語の文章を読むのは、日本語を習得している最中の児童にとっては大変です。検定教科書と併せて音声教材を使うことで、漢字やカタカナを目で追いながら、耳で聞いて読み進めていくことができ、学習への意欲が増した子がいました。日本語を読む力や書く力の習得につながった子もいます。



### 【日本語指導の時間】

小学校において外国人児童等が在籍する場合、子供たちが安心して過ごせる環境を整えています。なかには、日本語を学ぶための教室が設置されているところもあります。ここでは、児童の言葉の力に合わせた指導を行います。取り出し指導の場合は、在籍学級以外の教室で、教科の学習に必要な言葉を学びながら、在籍学級での学習へつなげていきます。児童にとって、母語での会話が思う存分できるその時間は、心の休憩時間にもなっています。

## エピソード（成長した子供たちの姿～小学校・中学校編～）

小学校、中学校と成長し、多様な文化や言語がある環境の中で、多様性を受け止める心が育ち、相手の文化や言語に寄り添いながら関わる子供たちの様子を紹介します。

### 小学校編

#### 【教科書をつくろう～クラス会議から～】

（小学校6年生 6月：2名ともに在日1年）

担任が、児童一人一人との面談の際に、外国籍児童2名に日頃困っていることなどがないか尋ねると、「もっと日本語が話せるようになりたい」「周りの友達に自分から話しかけるのが恥ずかしくて、なかなか話しかけられない」と答えました。本人たちの思いをクラス全体に投げかけると、他の児童から「クラス会議」の議題として取り上げ、みんなで考えようと提案がありました。

外国籍の友達の困っていることや助けて欲しいこととして、

【①日本語が話せるようになりたい】【②自分から話しかけるのが恥ずかしい】

の議題2点についてクラス会議を行い、自分たちにどんなことができるのかを話し合いました。その結果、①については、日本語での会話を増やし、その際にはゆっくりはっきり話すこと、英語を日本語で伝えるなどの意見にまとまりました。②については、どんな時も周りから話しかけ、会話のきっかけをつくること、相手の様子を見て、話したような雰囲気を感じたら周りの子から話しかけるなどの意見がでました。

話し合いを進める中で、友達を手伝いたい、助けたいという思いから教科書を作ろうという提案に、全員が賛成し、日本語、英語、ベトナム語の「にほんのことばのきょうかしょ」を一人1ページ作成しました。

外国籍児童2名それぞれに1冊、クラスでも活用できるように1冊、計3冊を作成しました。

子供たちが、外国籍の友達のことを自分ごととして捉え、考えた時の行動力は素晴らしく、また、外国の文化を学ぶよい機会となりました。

【児童が作成した教科書】



## 【ムスリムの生徒も一緒に】

(中学校3年生 4月：在日2年)

私の勤務していた中学校には、ムスリム\*の生徒が在籍しています。宗教上、いろいろな配慮が必要なため、保護者やムスリムのコミュニティーと相談をしながら進めています。

その中で、生徒が楽しみにしている宿泊行事は、普段の学校生活とは異なる場面が数多くあるため、どのような配慮が必要か、事前に保護者と連絡を取り、その情報を修学旅行に参加する教員と添乗員で共有し、対応を考えました。

例えば、普段は家から弁当を持ってきている生徒が多いため、旅行中の食事について、ホテルからメニューの細かなリストを事前に取り寄せ、保護者に確認をしてもらったり、準備する非常食はムスリムの生徒たちが食べても戒律に触れないものにしたりしました。

また、分散活動は生徒たちで昼食場所を決め、目的地まで行くことにしていたため、事前にムスリムの文化や習慣について知る機会をつくりました。それにより、生徒たちは昼食場所を決める際に、ムスリムも食べられる食事が提供されているか調べたり、活動時間の中にお祈りする時間を確保したりするなど、相手の文化や習慣を尊重し、受け入れながら計画を考えていました。



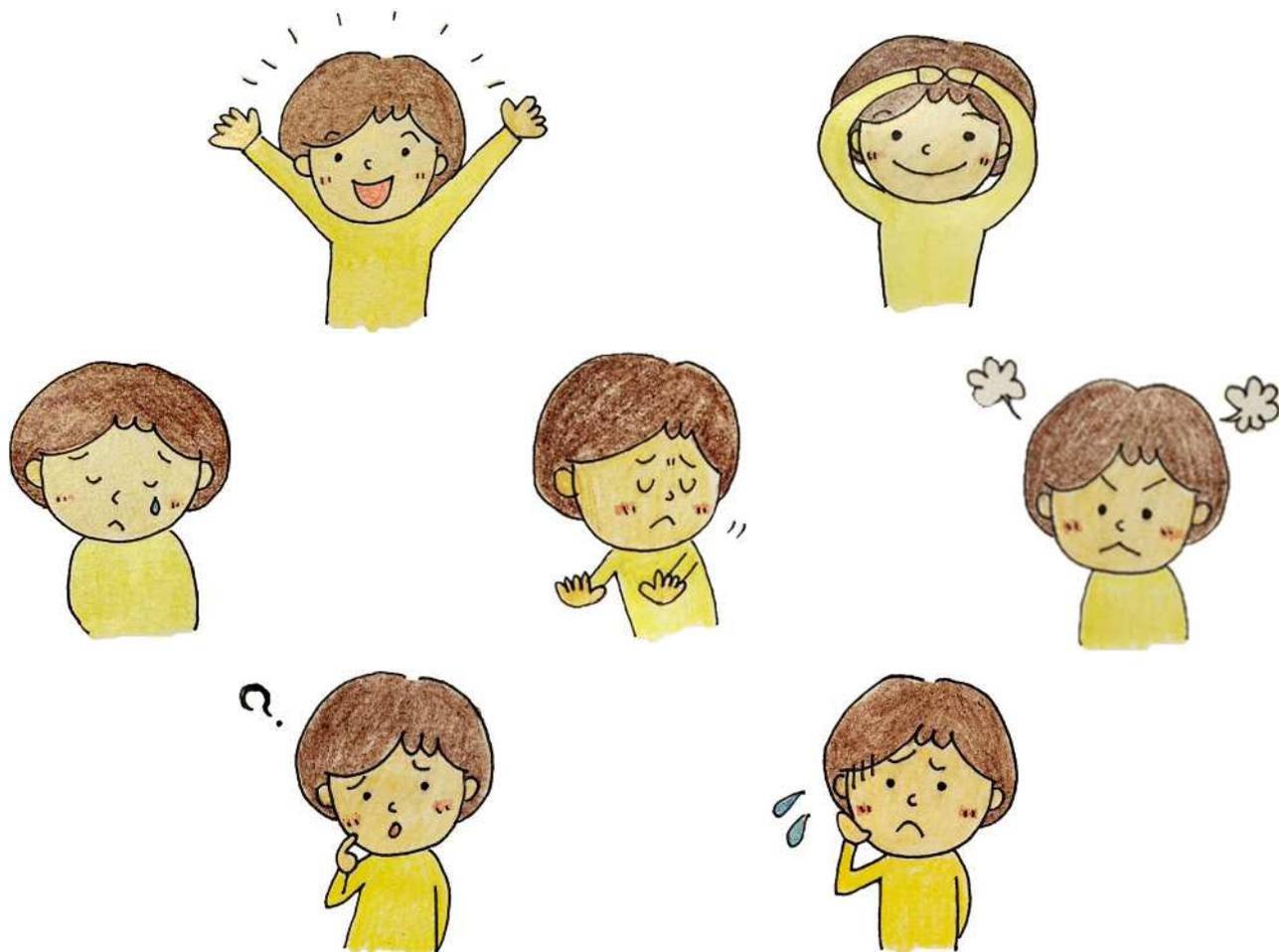
※ムスリム…イスラム教を信仰する人。

◎小中学校における、外国籍等の児童生徒を迎え入れる際の支援指導の工夫については、愛知県義務教育問題研究協議会で、事例集「外国にルーツをもつ児童生徒 受入れ・共生のためのはじめの一步」にまとめています。参考にご覧ください。



\*事例集「外国にルーツをもつ児童生徒 受入れ・共生のためのはじめの一步」

【気持ちを表すイラスト】



【体の状態を表すイラスト】



# 【生活の流れに関するイラスト】



## 【集団生活で見られる場面のイラスト】

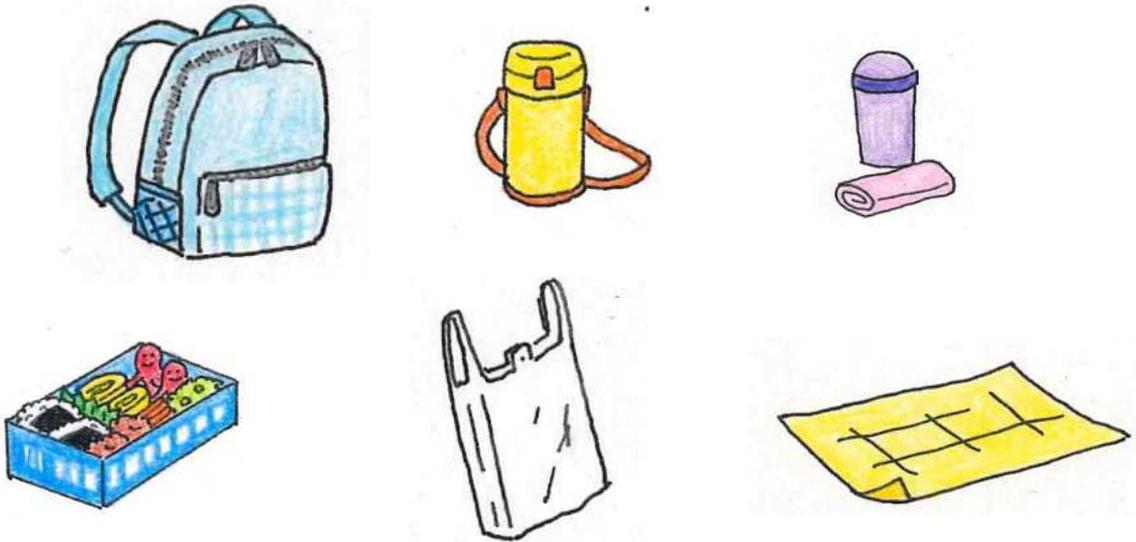


## 【避難訓練のイラスト】



## 【持ち物（行事）のイラスト】

### 遠足



### 活用のポイント

○絵カードとして活用する際は、【日本語】と【母語】と両方の言葉を示してあるとよいです。絵を見て分かることだけでなく、文字への興味関心をもつための環境の一つにもなります。本人だけでなく、周囲の子供たちにとっても、どんな言葉を使うのか興味関心をもつ、きっかけになります。

\*イラストデータについては、教育・保育、研修、広報等の目的で、複製、加工等を含め自由に活用して差し支えありません。

## おわりに

言葉や習慣の異なる外国にルーツのある子供が増えています。

日本語が分からないことや日本の生活習慣になじめず、不安を感じたり、伝わらないもどかしさに困惑したりしています。

どの子に対しても一人一人に寄り添うことは幼児教育の基本ですが、保育者は様々な壁を乗り越えるためにどのように支援したらいいのか迷い、悩むことがあります。それでも立ち止まることなく、日々の生活の中で、心がつながっていくためにいろいろな手段を考え、保育環境として、あるいは互いの困りごとを解消するための工夫をしています。

この事例集では「つながる」をキーワードにして、安心感やうれしさを見つけた事例を紹介し、保育の場で知恵や工夫を働かせていく保育者の一助となるようお願い作成しました。

それぞれの事例は日常の中で包摂的にとらえて展開されていますが、紙面の都合上、5つのカテゴリーに整理して示しました。

### 1 母語でつながる

困りごとが解消されなくても、自国の言葉が耳に入ってくることは、うれしさや安心感につながります。

その子を分かりたいという気持ちで誠実に向き合うことが大切です。

### 2 遊びでつながる

子供の遊びには、言葉を重視しない遊びがたくさんあります。走ったり跳ったりする遊びや、同じ楽曲でも様々な国の言葉で歌われる唱歌など、共通に楽しめる教材を提供していくことも心を通わせるための方法です。

### 3 文化の違いへの理解からつながる

食事や生活のスタイル、挨拶の方法など、異なる習慣は多くあります。共通理解は互いを肯定することから始まります。その子供の国の方法を受け止めつつ、日本のやり方にも徐々に興味をもって行ってほしいと思います。

### 4 保護者とつながる

尊敬の念を忘れず、その国の正確な情報を得て、保育環境に取り入れる部分を見つけしていくことが大切です。お互いに歩み寄りつつ、必要なことを伝達し合う方法を探していくことが大切です。

## 5 小学校とつながる

小学校へ円滑に進学できるよう、自治体では様々なサポートをしています。園からその地域の情報を伝えることは、安心感につながり、親しみをもって暮らしていくための大きな支えになります。

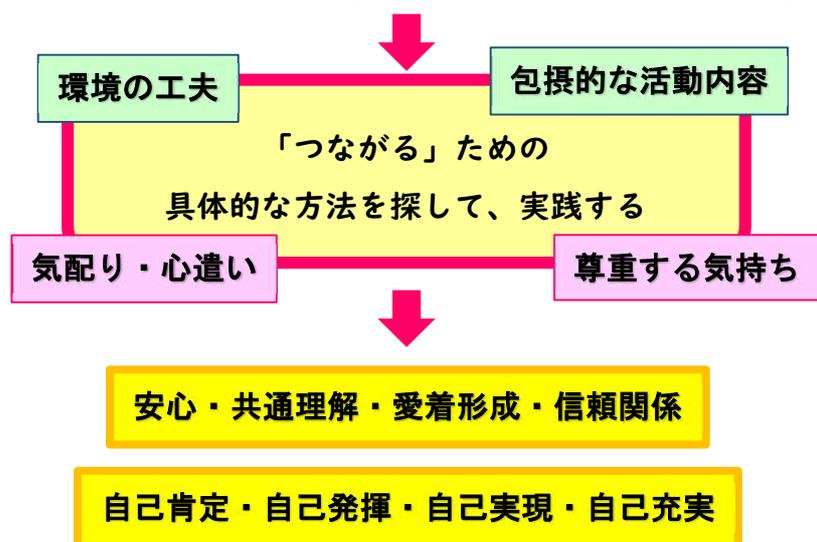
### エピソード（成長した子供たちの姿～小学校・中学校編）

小学校6年生と中学校3年生に成長した子供の生活場面で、外国籍等の子供への心遣いや相手の文化等を尊重し、共有しようとする姿の1例を紹介しました。社会の一員として溶け込み、成長する子どもの姿を思い浮かべてご覧ください。

どの事例も、全ての人自分らしい生き方を実現するために、日常の中でちょっとした環境の工夫や、相手を尊重する気持ち等の歩み寄りの手段を探して相互理解を深めてきたことがお分かりいただけたと思います。

この事例集は小さな歩みですが、お読みいただいて、ご自身の「つながる」ための実践がさらに深く、広く展開されれば、愛知の幼児教育の振興につながることは間違いありません。今後の子供たちの幸せを願い、充実した生活が保障されることを切に願います。

共に生きる ⇒ 「つながる」ことを感じ合うように意識する



多様なかかわりが充実感へ・グローバルな世界観をもつ子供たちへ

## 令和6・7年度愛知県幼児教育研究協議会委員名簿

(敬称略)

選任区分	氏名	職名	年度	
学識経験者・ 一般有識者	山口 雅史	椋山女学園大学教授	6	7
	鈴木 照美	愛知県保育者養成研究会会長	6	7
市町村 関係者	鈴川 慶光	半田市教育委員会教育長(～R6.9)	6	
	榊原 雅晃	半田市教育委員会教育長(R6.10～)	6	
	増岡潤一郎	みよし市教育委員会教育長		7
	小島 治彦	名古屋市教育委員会教育支援部義務教育課長	6	
	畑生 理沙	名古屋市教育委員会教育支援部義務教育課長		7
	古田 美津子	名古屋市子ども青少年局保育部担当課長	6	7
	鈴木 美奈子	碧南市福祉こども部こども課長	6	
	鈴木 善三	碧南市こども健康部保育課長		7
幼稚園・ 保育所及び 学校関係者	池田紀代美	愛知県国公立幼稚園・こども園長会長(名古屋市立第一幼稚園長)	6	
	室田 ひふみ	愛知県国公立幼稚園・こども園長会長(名古屋市立第一幼稚園長)		7
	村上 芳枝	愛知県私立幼稚園連盟副会長(ベル豊田幼稚園 統括園長)	6	
	鈴木 孝昌	愛知県私立幼稚園連盟副会長(はばたき幼稚園長)		7
	伊東 世光	愛知県社会福祉協議会保育部会副副会長(名古屋市 天使保育園長)	6	
	吉田 龍宏	愛知県社会福祉協議会保育部会副副会長(美和こども園長)		7
	宇都宮美智子	名古屋民間保育園連盟副会長(名古屋市 中村保育園長)	6	
	島崎 佳子	名古屋私立保育連盟副会長(いぶき保育園長)		7
	上野 忍	大府市立大東小学校長	6	
	柴田 由美子	愛西市立北河田小学校長		7
PTA 関係者	米倉 基裕	愛知県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長(名古屋市立第一幼稚園)	6	
	塚本 浩介	愛知県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長(名古屋市立第一幼稚園)		7
	林 健二	愛知県私立幼稚園PTA連合協議会会長(R5.7～R6総会) (名古屋柳城短期大学附属柳城幼稚園)	6	
	加藤 万里子	愛知県私立幼稚園PTA連合協議会会長(R6.8～R7総会) (幼保連携型認定こども園保見ヶ丘幼稚園)	6	7
	新井 恵梨	愛知県私立幼稚園PTA連合協議会会長(R7.7～R8総会)(きつき幼稚園)		7
	小島 愛子	一宮市立葉栗保育園保護者の会会長	6	
	伊藤 莉奈	常滑市立常石保育園父母の会(さくらの会)会長		7
県関係者	今宮 裕司	愛知県福祉局子育て支援課長	6	
	森川 明子	愛知県福祉局子育て支援課長		7
	藤井 徹	愛知県県民文化局学事振興課私学振興室長	6	
	大竹 隆夫	愛知県県民文化局学事振興課私学振興室長		7

令和6・7年度愛知県幼児教育研究協議会 専門部会委員名簿

(敬称略)

選任区分	氏名	職名	年度
学識経験者・ 一般有識者	鈴木 照美	愛知県保育者養成研究会 会長	6 7
	栗木 節子	修文大学短期大学部 教授	6 7
幼稚園・ 保育所及び 学校関係者	室田 ひふみ	名古屋市立高田幼稚園長	6
	池田 紀代美	名古屋市立二城幼稚園長	7
	水野 聡子	阿久比町立ほくぶ幼稚園長	6 7
	鈴木 清子	西尾市立鶴城幼稚園長 (R6)、西尾幼稚園長 (R7)	6 7
	足立 正和	愛知文教女子短期大学附属一宮ひがし幼稚園長	6
	笹野 大栄	幼保連携型認定こども園富士文化幼稚園	7
	近藤 江里子	小牧市立大山保育園長	6
	小川 由美子	小牧市立大城保育園長	7
	北村 朗子	豊田市立松平こども園長	6
	市村 由佳	豊田市立広沢こども園長	7
	阿部 良子	レイモンド庄中保育園長	6
	岡田 正順	白帝保育園長	7
	山本 由佳	清須市立清州小学校長	6
	加藤 登	あま市立七宝小学校長	7
清松 治子	岡崎市立広幡小学校長	6	
長坂 博子	岡崎市立連尺小学校長	7	
県関係者	都 筑 太	愛知県教育委員会あいちの学び推進課主席社会教育主事	6
	今田 宗孝	愛知県教育委員会あいちの学び推進課主席社会教育主事	7

令和6・7年度愛知県幼児教育研究協議会 事務局名簿 (愛知県教育委員会)

氏名	職名	年度
橋本 具征	愛知県教育委員会教育部長	6 7
尾本 国博	愛知県教育委員会義務教育課長	6 7
星原 秀晴	愛知県教育委員会義務教育課 担当課長	6
竹内 政一	愛知県教育委員会義務教育課 担当課長	7
稲垣 孝治	愛知県教育委員会義務教育課 課長補佐	6 7
塩野谷文雄	愛知県教育委員会義務教育課 課長補佐	6
谷川 永里子	愛知県教育委員会義務教育課 課長補佐	7
後藤 義広	愛知県教育委員会義務教育課 主査	6 7
渡邊 祐子	愛知県教育委員会義務教育課 主査	6 7
西澤 邦男	愛知県教育委員会特別支援教育課 主査	6
成田 敦子	愛知県教育委員会特別支援教育課 主査	7
加藤 綾子	愛知県総合教育センター学校支援研修課 主査	6 7
渡辺 久美子 中井 吉美	愛知県幼児教育コーディネーター	6 7

イラスト・カットの協力：常滑市立西浦南保育園長 草水 敬子

愛知県幼児教育研究協議会のあゆみ

年度	経	過
昭 47	・協議会の設置	
48	・「幼児教育の指針」の作成	
49	・協議題 4・5歳児の教育(保育)内容を中心に	(答申)
50	・協議題 幼児教育と小学校教育のあり方とその連携	(中間報告)
51		(答申)
52	・協議題 今後における幼稚園と保育所の関係について	(報告)
53	・協議題 幼・保の教育(保育)と家庭教育との連携	(中間報告)
54	・協議題 幼稚園・保育所と家庭との連携	(報告)
55	・協議題 幼児教育の充実をめざす指導の在り方	(中間報告)
56		(報告)
57	・協議題 幼児教育に関する今日的課題	(中間報告)
58		(報告)
59	・協議題 幼児の生活実態とその問題点	(報告)
60	・協議題 幼稚園・保育所における望ましいしつけの在り方	(報告)
61	・協議題 家庭の教育力回復のために幼児教育機関の果たす役割	(報告)
62	・協議題 幼児教育のための保育者の資質向上の在り方	(報告)
	・現職教育資料「保育者としてこれだけは」	(発刊)
63	・協議題 人とのかかわりをもつ力の育成	(中間報告)
平 元	//	(報告)
	・現職教育資料「人とのかかわりをもつ力の育成」	(発刊)
2	・協議題 自然との触れ合いや身近な環境とのかかわり合いについて	(中間報告)
3	//	(報告)
	・現職教育資料「自然との触れ合いや身近な環境とのかかわり合いを持つ力を育てる」	(発刊)
4	・協議題 基本的な生活行動を主体的に身に付けるために	(実態調査)
5	//	(中間報告)
6	//	(報告)
	・現職教育資料「基本的な生活行動を主体的に身に付けるために」	(発刊)
7	・協議題 一人一人の幼児の特性や発達の課題に応じた教育・保育の在り方	(実態調査)
8	//	(中間報告)
9	//	(報告)
	・現職教育資料「わたしたちの園にふさわしい教育課程・保育計画」	(発刊)
10	・協議題 心豊かな幼児の育成をめざして	(実態調査)
11	//	(中間報告)
12	//	(報告)
	・現職教育資料「保育のポイント Q&A50」	(発刊)
13	・協議題 幼児の心を豊かにする幼稚園・保育所と家庭との連携のあり方	(実態調査)
14		(報告)
15	・協議題 子どもたちのすこやかな育ちを支える幼稚園・保育所と小学校の連携の在り方	(実態調査)
16		(報告)
17	・協議題 幼児期における心の教育	(実態調査)
18	－「命」を感じる教育を考える－	(報告)
19	・協議題 協同的な活動を通して、幼児期の「遊び・学び・育ち」を考える	(実態調査)
20		(報告)
21	・協議題 子どもや社会の変化に対応した教育課程・保育課程	(実態調査)
22	－伝え合う力や規範意識の芽生えを培う体験を重視して－	(報告)
23	・協議題 愛知県のこれからの幼児教育の在り方を考える	(報告)
	－幼児教育の指針の策定に向けて－	
24	・協議題 小学校教育を見通した幼児期の教育を考える	(中間報告)
25	－接続期における教育課程・保育課程の編成に向けて－	(報告)
26	・協議題 幼児教育の充実に向けた保育者の資質と専門性の向上について	(中間報告)
27		(報告)
28	・協議題 生涯にわたる学びを支える幼児教育の在り方	(中間報告)
29	－幼児期における「学びに向かう力」の育成を通して－	(報告)
30	・協議題 幼児期の育ちを支える幼稚園・保育所・認定こども園と家庭との連携の在り方	(報告)
	について－「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして－	
令 元	・協議題 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる学びの芽を捉える	(報告)
	－「自然との関わり・生命尊重」の姿に視点を当てて－	
2	・協議題 幼児期の教育における一体的に育まれる資質・能力とは	(中間報告)
3	－子供の具体的な遊びや生活の姿から考える－	(報告)
4	・協議題 幼児教育における「社会に開かれたカリキュラム」の実現をめざして	(中間報告)
5	～幼児期に育みたい資質・能力の理解に向けて～	(報告)
6	・協議題 多文化の環境で育ち合う幼児教育の在り方	(実態調査)
7	～受け止め合う心を育む関わりを考える～	(中間報告)
		(報告)

令和7年度  
多文化の環境で育ち合う幼児教育の在り方  
～受け止め合う心を育むための関わりを考える～  
事例集

令和8年3月発行  
愛知県幼児教育研究協議会  
愛知県教育委員会  
(事務局)  
愛知県教育委員会義務教育課  
〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 052(954)6799 (ダイヤルイン)